泉大津市社会教育委員会議

■第2回会議の議事概要

日　　時：令和元年11月18日（月）10時00分～12時00分
場　　所：泉大津市役所3階大会議室
出　　席：車谷委員、木野委員、井上委員、岡崎委員、冨山委員、祐仙委員、藤原委員
公開の有無：公開（傍聴者：なし）

議　題
１．新図書館整備事業における進捗状況について
報　告
・指定管理者の指定について
・大学連携事業について
・全国社会教育研究大会「兵庫大会」に参加して
その他
・成人式について
・仲よし学級について

議事概要
１．図書館整備事業における進捗状況について
《議事進行》
・事務局より図書館整備事業における進捗状況について説明した後に質疑、意見交換をおこなった。
《主な意見等の内容》
井上委員：新図書館の館長が内定しているということだが、その内定者に図面を見てもらっているのか。どんな意見があったのか。
事 務 局：カウンターからの視界が広がるように「オリアムウォール」を壁ではなく天井吊りにした。また、スペースが広いので、図書館職員が回遊することによるレファレンス強化の提案があった。
井上委員：博物館でもあることだが、設計者の意図が前面に出て、運用面で使いにくいケースがよくある。
事 務 局：アドバイザーにも随時意見をもらっている。
井上委員：司書にも意見をもらった方が良い。
事 務 局：司書にも意見をもらっている。
岡崎委員：資料の図面中色塗りしていない部分は何を指しているのか。
事 務 局：設備等の関係で使用できない区画になる。
岡崎委員：提案書図面の縮尺は合っているのか。
事 務 局：縮尺は合っていない。

岡崎委員：現実的な絵を描くべき。

中高生の利用率を上げるために目的を果たすためのスペースを整備するということだが、初めは物珍しく来館するのかもしれないが、スペースを上手く活用できないのではないか。受験勉強程度になると思う。中高生専用で整備しても経験上、長持ちしないのではないかと思うし、特定のグループが独占してしまうような懸念もある。

枠組みを固めてしまうことで失敗になってしまうよりも、「若年層」や「これからもまちの担い手」というように範囲を広げるなど、ポジティブなイメージにした方がいいように思う。

ワークショップのなかでのアンケート結果で、「5Gへの対応をどのように考えているのか」という投げかけがあるが、この問いは市民のレベルにおいても、今後の図書館の意味合いが変わってくると考えられる。今はネットで情報を得ることができる。

設計者の提案のなかに「ICT」というワードが出ているが、モノとしてどこまで整備していくかが模型では見えない。蔵書検索だけではなく、パソコンのひとつでも整備するなどあってもよい。

現図書館の蔵書が24万冊以上あるなかで新図書館では20万冊ならば、残りの本をどうするのかというアンケート結果など現実的な問いが出てきている。

ハードだけではなく、ソフトも同時並行で考えていかないといけないなかで、ハード面だけ見ても、我々も議論ができない。

事 務 局：ティーンズスペースについては、学生が図書館を利用できる時間帯は専用にして、その他の時間については一般利用も可とするなどの運用が望ましいのかなども内部で議論している。若年層の図書館利用については、ご指摘のように仕掛け続けていかなければいけないという認識は持っている。

岡崎委員：図書館は本の貸出施設ではなく、インフォメーションターミナルとなる。それに相当する機能が必要であるということ。

事 務 局：ICTについてはタブレットの貸出などを検討しているところ。

岡崎委員：ある中学で今年から全ての教科でタブレットを使用している。その検証をしているが色んな問題がある。タブレットのバージョンアップによる更新やタブレットに馴染まない生徒の問題などがある。学校教育分野だけで色んな齟齬が生じているなかで、一般市民となれば、年齢層やスキルに幅もより大きくなる状況で果たして上手く機能するのか懸念するところである。

また、ICTはインフォメーションとコミュニケーション。本やICTを活用して市民が学び、図書館がインフォメーションを提供する、あるいはそのインフォメーションを市民が得るということ、そのインフォメーションを図書館の機能を活用して、どのようにコミュニケーションに繋げていくかが重要。もはや図書館というよりも教育行政という感じがする。そのヒントがアンケート結果からも見えてくるのでおもしろいなと感じている。

冨山委員：「コーヒーが飲みたい」とか「お話しがしたい」などの市民側のニーズの積み上げはしっかり行われているという印象を持つ。一方で、行政側がどんな機能を持たせた

いかということがハード面と併せて見えてくるといいのではないかと考える。素晴らしい図書館ができて、そこ1箇所だけということよりもネットワークを形成して公民館や体育館などとどう繋がっていくかが重要だと思う。

岡崎委員：図書館に多くの機能を持たせるのであれば、図書館職員は図書館の職員であって、学校の先生ではない。従って、他の施設などと連携することが重要。例えば、ティーンズスペースを設けるのであれば、学校の先生もその機能を理解し、「図書館職員の言うことは聞かないといけない」というような働きかけをしていくなどの連携が必要。

木野委員：安心であることや安全面を考えたときに駐輪場に対する懸念が挙がっていたかと思うが、その点の対策は考えているのか。

事 務 局：駐輪場については確かに意見をいただいているところで、現在も検討しているところだが、駐輪場が満車で停められないのではないかという懸念については、アルザ側で料金体系を変更したことにより駐車率が半分以下となっている。

安全面でいうと、現図書館は夜間、非常に暗い立地にあるが、駅前は商業施設自体にも防犯カメラもあり、照明等もあることからむしろ安全性が確保できると考えている。

藤原委員：駐輪場については、空きが出ているという話だったがそれは料金が上がったからで、子どもたちへの対応については考えてほしい。

図書館については居場所になるなど、色んなものの拠点になればいいと思う。

人気がある図書館は他市にもあるが、泉大津の特色を出してほしい。

図鑑だけの図書館もある。蔵書に特色を出してほしい。また、本の除菌機器を導入してほしい。

祐仙委員：表面的なことだけではなく、背景等から何が求められているのか推察する必要があるのではないか。

こちらが良かれてと思っても、色んな年代や視点があり、思わぬ反響が生じる。

100%の理解というのは難しいと思う。

土日の駅前では、あるアプリの利用者で大人数が集うことがある。また、文化協会の活動のなかで広報紙を配布しているがこれまではなかなか捌くことができていなかったが、市役所のロビーに配架するようになって持ち帰りが増えた。人の動線を考えることが重要であることがわかった。

そう考えると図書館の設計や設えも要因となるが、図書館が駅前に移転するということでどれだけ人の流れがあるのかは未知ではあるが、いい意味で未知なことがこれから生じてくると思うのでワクワクしている。

報　告

・指定管理者の指定について

《議事進行》

・事務局より指定管理者の指定について説明した後に質疑、意見交換をおこなった。

《主な意見等の内容》

車谷議長：一括で指定管理とするのか
事 務 局：そのとおり

・３大学連携事業について
《議事進行》
・事務局より3大学連携事業について説明した後に質疑、意見交換をおこなった。
　生涯学習推進係・・・和歌山大学連携事業の報告
　文化財係・・・桃山学院大学連携事業の報告
　スポーツ青少年課・・・大阪体育大学連携事業の報告
　各連携大学関係委員より総括
《主な意見等の内容》
　特になし

・全国社会教育研究大会「兵庫大会」に参加して
《議事進行》
・参加委員より研修内容等について報告を受けた後に質疑、意見交換をおこなった。
《主な意見等の内容》
木野委員：基調講演には劇作家の平田オリザ氏が来られた。
タイトルは「わかりあえないことから多文化共生を目指す演劇教育」ということで、わかりあえないということは価値観が多様化しているということ。それを否定したり、分断したりすることで居心地が悪くなり、多文化共生を演劇教育で目指そうとする取り組みを紹介するものだった。
　何を学ぶかよりも誰と学ぶかが大事。色んな価値観と触れ合っていかないと活性化しない。大学入試では、多様性、色んな価値観を持った人を選ぶかが重要になってくる。多様性を確保するために大学に求められていて、大学入試では、単純な入試では価値観の多様性までは把握できないので、受験準備ができないような難しい問題を提示することが重要。「身体的文化資本」という言葉を用いていたが、「身体的文化資本」とは幼いころから積み重なっているセンス・マナー・コミュニケーション能力や美的センス、感性を指し、それが必要だということだった。色んな人と上手く付き合うことができる能力であり、現在の学校教育では教育格差の問題が注目されて、身体的文化資本に係るものについては家庭に丸投げされている。本の読み聞かせをすることにしても本がなければできないし、家庭で博物館に連れて行くというような土台がなければ家庭では身体的文化資本の形成に差が生じる。
　今後は、今まで学校教育の付け出しであった社会教育をないがしろにすると大学にも入れなくなる。従って公共文化施設の役割が重要で、家庭まかせではなく、教育政策として身体的文化資本をどのように形成するかが課題になる。
　平田オリザ氏は、本物に触れる機会が重要になるという考えで、豊岡市に劇団ごと移住した。また、同氏は生活保護や雇用保険などは格差を解消するための「事後」

分配であり、「事前」分配が重要であるとおっしゃっていた。それは、社会教育や文化政策などに予算を投じていくのが行政の重要な役割になってくるということだった。

祐仙委員：平田オリザ氏の話で２つ衝撃を受けた。1つ目は「事前」分配には地域や様々な主体との連携が必要で、それは社会教育が重要だということで、改めて社会教育の価値を再認識した。2つ目は、「ズレ」と「違い」の差を話されていて、例えば靴を脱ぐという文化はヨーロッパにはないが日本やアジアにはあるというのははっきりした「違い」であるが、日本と韓国では、同じように靴は脱ぐが、その靴を揃えるのは日本で、揃えないのが韓国だそうだが、靴を揃えれば韓国では「もう帰りたいのか」と捉えられる。それは文化の「ズレ」。「違い」は学んで埋めていけるけれど、「ズレ」を理解するのは非常に難しく、目に見えない文化の違いから諍いが起きる。

世界の中でも、遠くの国より近くの国との揉め事が一番多いというのが腑に落ちた。

その他

・成人式について

《議事進行》

・事務局より成人式について説明した後に質疑、意見交換をおこなった。

《主な意見等の内容》

特になし

・仲よし学級について

《議事進行》

・事務局より仲よし学級について説明した後に質疑、意見交換をおこなった。

《主な意見等の内容》

冨山委員：今日説明があったのは見直しが必要という流れにあるということでニーズの説明があったのか。

事 務 局：現状では、経過措置期間中のため学童保育の設置基準を上回る児童数を受け入れており、基準を遵守すれば待機児童を出す状態ではあるが、教育委員会の考えとして入会希望者は全て受け入れている方針。また近隣と比較して、開設時間の延長も検討する必要がある。

指導員数の確保や財源等の課題があるが、充実を図っていきたい。

その他意見

井上委員：先ほどの博物館の件について、博物館教育を教えている立場で申し上げる。

単に博物館に連れていけばいいのではなく、一緒に行った人との関係が重要で、いい記憶、いいものを見たというものが刷り込まれる。

学生に聞いてみると学校で無理矢理連れていかれて嫌な記憶しかない学生は二度と行きたくないという。誰と一緒にどういったことを経験したかが大事。

終了12：02